

授業科目名	高等教育論
科目番号	CB24061
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	春AB秋AB火2
担当教員	立石 慎治
授業概要	<p>高等教育論とは、「現実の高等教育についての問題意識から調査分析をおこない、それを理論化し、そこで得た知見を蓄積することを目的とする」営みです(金子元久(2012)「高等教育論」『日本労働研究雑誌』No.621)。対象は高等教育に限定されていますが、様々な研究手法を援用するところに特徴があります。</p> <p>ところで、学士課程の段階で学ぶ高等教育論には、もうひとつの特徴があります。それは、いままさに自身を取り巻いている環境について知ることになる、ということです。高等教育・大学の制度や仕組み、実態を知ること、大学に入って不思議に思ったことに答えを与えられるようになったり、疑問にも思わなかったことを疑問に思えるようになったりするかもしれません。ひいては、履修後の学生生活や卒業後に役立てられる知識にめぐり合うこともあるでしょう。こうした“将来”の場面のことも念頭に置きつつ、本授業では、高等教育論が蓄積してきた知識等を獲得することを目指します。</p>
備考	<p>実務経験教員 対面</p>
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	教育学の基礎的体系的知識、教育学における総合的思考力
授業の到達目標（学修成果）	<p>1. 我が国の高等教育における制度・組織、内容・過程、機能のいずれかの領域に関して知識を身に付けたことを示せる（基礎的体系的知識に対応）。</p> <p>2. 学習した内容に関して、量的データを処理した結果等を交え、自身の見解を論理的かつ省察的に述べるができる（総合的思考力に対応）。</p>
授業計画	<p>「高等教育論がこれまで対象としてきた3つの問題領域」（金子2012）である、1制度・組織、2内容・過程、3機能について概観するとともに、教育に関する量的データの分析手法について学びます。</p> <p>春学期は、高等教育に関する知識（制度・組織、内容・過程、機能）の修得に取り組みます。</p> <p>秋学期は、（高等）教育に関するデータ等を用いて、教育データ分析の手法について学びます。</p> <p>第1回 オリエンテーション:学修・評価に関する合意形成 第2回 学校制度のなかの高等教育 第3回 学位制度・単位制度:学位授与機構と単位累積加算制度 第4回 政策と大学:筑波大学を知る—新構想大学と柔軟な教育研究組織 第5回 大学生の学習行動(1):学習時間を巡る議論 第6回 大学生の学習行動(2):留年・退学 第7回 大学のカリキュラム:一般教育,教養教育,専門教育 第8回 キャリア教育:初等中等教育と高等教育の比較から 第9回 大学教授職 第10回 中間まとめ 第11回 オリエンテーション:これまでのデータ分析経験の振り返りと今後の受講に向けての準備 第12回 実態を知りたい:記述統計/層別・可視化</p>

授業計画	<p>第13回 比較したい:t検定／分散分析 第14回 関係を調べたい(1):相関(／クロス表) 第15回 関係を調べたい(2):回帰分析 第16回 関係を調べたい(3):決定木分析 第17回 個人プロジェクト(1):仮説を立て、データを集める 第18回 個人プロジェクト(2):分析してみる 第19回 個人プロジェクト(3):結果を解釈し、報告にまとめる 第20回 最終まとめ</p> <p>秋学期の内容については、特に次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般化線形モデルは今回は扱えません。学修を希望される場合は申し出てください。 2. 学修の進捗状況に応じて、内容が変更される可能性があります。 3. 教育現場において生じるデータの性質を考慮した説明が多めになります。数理的な説明については適宜補足するか参考資料を配布します。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間レポート:50% 春学期で扱ったトピックから1テーマを選び、得た知識を用いて、高等教育に関する(社会)事象を解釈ないし説明してください ・最終レポート:50% 秋学期で学んだデータ分析技法を用いて、教育に関するデータを分析した結果に基づき、高等教育に関する(社会)事象を解釈ないし説明してください <p>*採点基準は授業内で提示されます。</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>○春学期 授業内：講義(90%), 演習(10%) 授業外：各授業回で扱った事項についての復習ないし宿題が出ます。</p> <p>○秋学期 授業内：講義(65%), 演習(35%) 授業外：技法修得のための授業外学習が相当程度課されます。また、御自身の分析プロジェクトがあるため、授業外学習は大量となる見込みです。</p>
教材・参考文献・配付資料等	<p>春学期については、プリント等の資料(もしくはpdfデータ)を配布するため、教科書の指定はありません。</p> <p>秋学期については、『Rによる教育データ分析』(小林・濱田・水本2020)を使います。参考文献は以下に示すとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2002, 『短大からコミュニティ・カレッジへー飛躍する世界の短期高等教育と日本の課題』東信堂。 2. 2005, 『高等教育概論—大学の基礎を学ぶ』ミネルヴァ書房。 3. 2008, 『大学と社会』放送大学教育振興会。 4. 1997, 『短大ファーストステージ論』東信堂。 5. 1998, 『日米の大学単位制度の比較史的研究』風間書房。 6. 各年, 『学位研究』。 7. 『大学の組織運営改革と教職員の在り方に関する研究 最終報告書』国立教育政策研究所。 8. 2014, 『キャリア教育基礎論』実業之日本社。 9. 2019, 『大学生のための実践的キャリア&就活講座』中央経済社。 10. 2010, 『若者と初期キャリアー「非典型」からの出発のために』勁草書房。 11. Rによる教育データ分析 12. 2008, 『変貌する日本の大学教授職』玉川大学出版部。

教材・参考文献・配付資料等	<p>13. 2015, 『もっと知りたい大学教員の仕事』ナカニシヤ出版.</p> <p>14. 2013, 『大学教員の能力—形成から開発へ』東北大学出版会.</p> <p>15. RユーザのためのRStudio [実践] 入門—tidyverseによるモダンな分析フローの世界—</p>
オフィスアワー等 (連絡先含む)	<p>研究室もしくはオンラインにて対応します.</p> <p>オフィスアワーの時間帯及び場所については, 授業内で提示されますので御注意ください.</p>
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	<p>○のぞむこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いま学んでいる大学という場が, どのようにして成り立っているのかについて関心がある方の受講をお待ちしています. <p>○注意点</p> <p>1年を通して:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・負荷はかなり高めになると予想されますので, 履修に当たってはよくよく御検討ください. また, 負荷が高かったとしても, 本来扱いたい内容に比べればごく僅かに留まります. 自ずと限界がありますので, もし高等教育に関する特定のトピックやテーマ, 特定の分析技法に強い関心がある場合は, 学修の進め方について御相談に乗ります. ・各学期初回で内容ならびに成績評価方法について合意形成を行うので, 特別な事情がないかぎり, 初回は御参加ください. <p>特に秋学期分について:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋学期分の内容については, 「データサイエンス」での履修内容を考慮して多少の重なりを持たせつつ, ごく初歩的なところからスタートします. 統計等について独習をされている方については個別に対応しますので, お申し出ください. <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋学期分の授業内容については, 下記「比較高等教育論」にも応用可能な部分があります.
他の授業科目との関連	CB25191 比較高等教育論
ティーチングフェロー (TF) ・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	高等教育, 大学, 制度・組織, 内容・過程, 機能, 教育データ分析